

## 四谷の

# 千枚田だより



第 121 号

も杓子も労働力の人材供給として重宝され、必然的に都市

### 念仏踊り

身平橋組では八月十三日、本尊様十四日、初盆宅(庭受け)において念仏踊りが催された。

室町時代を発祥として連綿と引き続かれてきた念仏踊りも昭和二十年後半の化学工業の発達から猫



①



②

へと生活の場を移行、祭りごとより現金収入を重視する時代に移り変わり経済成長のあおりを受け伝承文化等は衰退の一途を辿った。  
**身平橋西組共新連の事例**  
戸数、二十八軒(中老衆 二十二名

然的に都市

若い衆(二十五名)と小集落にしては頗る元気がいい。その秘策は昭和二十八年、若い衆が十一名に減少、その危機感から長男、次男を問わず中学二年生になれば若い衆として「はね込み」を叩き込み、盆に帰省した誰でも盆踊りができるように仕向けた成果であると村人は自負する。

### 写真説明

①道行き②はね込み③初盆宅の仏間に飾られた切り子灯籠④中老衆による念仏供養⑤手踊り



③



⑤



④

### 獣害被害

史上希な猛暑と渇水で宇連ダムも九月四日には貯水率一%を割る事態に陥った。四谷の千枚田はおかげで恵まれた湧き水のため何とか水不足を回避できた。

刈り取りも間近に迫った矢先、イノシシが毎夜出没しだした。対策として効果のある電気柵を田んぼや作業道(景観道)脇に張り回しているもののイノシシは夕涼みを兼ねて遊歩道を闊歩、電気柵の隙間を探したり沢から侵入、田んぼで水浴(ぬたを打つ)する。

イノシシは風呂に入らないため、不潔で「ぬた」を打った稲は粃にし



豊橋調理製菓専門学校の実習田

ても臭くて食べれなく、刈り取って消却する他はない。只でも厳しい段々田んぼの百姓は棚田を守る責務で耕作を続けているが、獣害に作る(守る)意欲を失うことに危機感を憶える。(舜)はよる八時に、村雲伸

一(理事)夫婦は九時半に爆竹とロケット花火で棚田を威嚇して廻るのが日課で花火代もバカにならない。今日も田んぼの山側でサルがギヤギヤア ヒョウヒョウ騒いでいる。困ったもんだ。

### 作業道補修

八月二十一日、千枚田入り口付近作業道の崩落危険ヶ所の補修を小山泰弘(顧問)と(舜)で行った。



### 連谷地区敬老会 (九月八日)



連谷を支え 築いたナチュラルリストたち



9月5日、豊橋鉄道ラッピングバスの旅「奥三河を知ろう」に参加した面々

### 稲刈り(予定)

- ・ 九月十六日、棚田の楽耕
- ・ 九月十九日、豊橋調理製菓専門学校
- ・ 九月二十五日、連谷小学校(予定)

変な嘶  
千枚田が一望できる場所に杉丸太でベンチを作ってみた。

当たり前では変哲もないと思い、傾斜面にやや斜めにわざと座りづらく置いた。ところがこれが人気物でいつ見ても昔のアベックが腰を掛けている。通りすがり「座りにくいやあ、これはノン、話題が無くなったあんたらがこのベンチに座りやあ、昔のようにカスでもない話をせるようになりやあいいと思っ



発行  
平成二十五年九月十五日  
鞍掛山麓千枚田保存会  
文責 小山舜二